



今月のことば

Words of the Month

委員会活動及び会派活動のすすめ

日本弁理士会副会長

権正 英樹

1. はじめに

私は、2004年（平成16年）の弁理士試験に合格し、2005年の1月から特許事務所で勤務しています。今まで、2つの事務所に勤務しましたが、いずれの事務所も委員会活動や会派活動に寛容でしたので、何となく、委員会活動や会派活動を続けていました。そして、2025年の4月から、令和7年度の日本弁理士会副会長を務めさせていただいており、忙しいながら、充実した数か月を過ごしています。弁理士業務は、仕事をした分だけ、それなりの収益が上げられますし、時間も比較的に自由に使える、とても良い仕事だと思います。私も、弁理士業務だけに一生懸命になっていた時期もありました。しかしながら、弁理士業務だけに20年間取り組んでいたら、今現在感じている充実感は得られなかったと思いますし、また仕事が煮詰まり、躓いてしまっていたかも知れません。委員会活動や会派活動は、単に手間がかかるだけの活動のように思われがちですが、後述するように楽しみもあり、充実感も得られる活動であり、また、仕事以外に目を向けたり、事務所外の方々と交流が図れるといった効用もあります。近年、弁理士業務だけで日常が埋め尽くされてしまっている方々もいらっしゃると思いますが、そのような皆さまに、委員会活動や会派活動を是非お勧めいたします。

2. 委員会活動

私の携わった委員会の活動について、簡単に紹介いたします。初めての委員会は、広報センターでした。広報センターは、当時は附属機関になっていない単年の委員会でした。私は、広報誌「パテント・アトニー」の発行に携わりました。記事を書いてもらう依頼先を探したり、査読したりという感じの少し地味な作業ですが、中々楽しかったです。今でも、パテント・アトニーは愛読していますが、これも発行に携わったことがあるからこそと思います。

その後は、弁理士業務に集中した時期があり、数年間のブランクがあったのですが、関東会（当時は関東支部）の山梨委員会に入りました。山梨委員会などの都道府県委員会は、各地域の知的財産権制度の普及活動を行う委員会で、発明相談会、他士業との交流、各地域にある学校での講師活動など、様々な活動を行っています。私は山梨県出身ということもあり、山梨委員会に所属しましたが、実家のある山梨県の知財普及活動に携わることができ、大変満足感がありました。また、山梨県や山梨県にゆかりのある会員の方々と、共に活動して、仲間ができることは、非常に有益でした。将来、地元での活躍を考えている方々には、都道府県委員会への所属を強くお勧めいたします。

山梨委員会には所属しつつも、令和元年度には、日本弁理士会執行理事を務めさせていただき、その後、知的財産支援センターに入りました。知的財産支援センターでは、弁理士の社会的奉仕活動を行っています。私は、小中学校や高校への支援を行う第1事業部に所属して活動しました。コロナ禍の時期と重なったため、知的財産授業の講師を務めることはできませんでしたが、知的財産教育教材の作成には、数多く携わることができました。「知財の引き出し」、「発明工作授業」、「知的財産ショート動画」など、私の携わった教材が、日本弁理士会のホームページなどに掲載されると嬉しく、充実感もあります。ただ、これらの教材があまり周知されておらず、埋もれてしまっているのは残念です。私の今後の委員会活動で

は、これらの教材の周知方法も考えていきたいです。そのために、広報センターなど他の附属機関との協力も欠かせないのではないかと考えています。

他には、財務委員会にも所属しました。財務委員会では、日本弁理士会の財政全般に関する事項の調査研究などです。具体的な活動内容が分かりにくく、ちょっとハードルが高いためか、財務委員の方々は、ベテランの方が多く、次年度に日本弁理士会会長になられる方が所属していたりします。この委員会に所属する方は、他の委員会でもご活躍されている方が多く、またお会いしましたねという感じとなります。委員会活動のある程度経験した方には、お薦めの委員会です。

3. 会派活動

私の所属する会派である弁理士クラブの活動について、簡単に紹介いたします。会派活動としては、まず手始めに、各種イベントへの参加から入る方が多いです。イベントとしては、研修会、新人弁理士歓迎会、納涼祭、旅行会、口述練習会などがありますが、これらのイベントは、弁理士クラブ内の各委員会企画実行を行っています。

弁理士クラブでの初めての委員会は、福利厚生委員会でした。この委員会では、旅行会の企画実行と、その他イベントの企画実行を行っています。旅行会は、温泉旅館などで宴会を行い、一泊して、翌日は、ゴルフと観光の2組に分かれるというのが定番です。宿泊先や観光先を決定し、宴会などの司会を行うのが、委員のお仕事となります。私は出不精で、あまり旅行をしなかったのですが、会派活動で、年に一回ぐらいは旅行するようになったのは、私としては良かったと思っています。

福利厚生委員会の後には、研修委員会に所属しました。研修委員会は、日本弁理士会継続研修を含む研修会の企画実行を行っています。また、弁理士クラブは、日本弁理士会継続研修における認定外部機関であり、認定外部機関の中で、最も早く認定を受けた団体です。伝統のある委員会ではありますが、堅苦しいこともなく、自由に講師を探してきて、研修会を開催しています。

委員会以外では、弁クメールマガジン編集部にも所属しています。ここでは、2か月に一回のペースで原則偶数月の月末にメルマガを配信しており、弁理士クラブのホームページでは、一部の限定記事を除き、メルマガを公開しています。編集部は、企画、制作、総務に分かれて、組織的に活動しています。組織がしっかりしていて、2か月に一回の編集会議でメルマガの内容が決まれば、あとは流れ作業的にメルマガが配信されます。新規の編集部員の獲得に苦労はしていますが、その分、固定の編集部員は仲良くやっています。

また、弁理士クラブには、(一社)弁理士クラブ知的財産実務研修所があり、ここでは、「実務家のための知的財産権判例70選」を発行しています。そして、この知的財産実務研修所の研究部に所属すると、この書籍の執筆者になれます。書籍の執筆者となれる機会は中々無いと思いますので、ご興味のある方は、弁理士クラブに入会し、知的財産実務研修所の研究部に所属していただければと思います。

4. おわりに

以上、委員会活動や会派活動を紹介しましたが、私は、委員会活動や会派活動は学生時代の部活動に近いと思っています。部活動は、学校の授業のように必須というわけではありませんが、この部活動が学生生活の大切な思い出となっている方は多く、学生時代に部活動をしないともったいないと考える方も多いと思います。そして、部活動が学生時代にしか経験できないのと同様に、委員会活動や会派活動も、弁理士にならないと経験できませんので、折角弁理士になったからには、委員会活動や会派活動をしないともったいないです。委員会活動や会派活動で、人生の思い出を集めましょう。この記事を読まれたことで、委員会活動や会派活動に興味を持っていただき、活動に参加してみたいと思って頂けたら幸いです。